

第二の意見

『セカンドオピニオン』とは



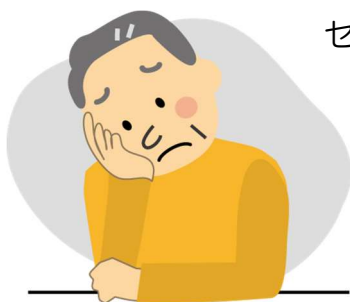
治療を受けるうえで、「本当にこの病名なのだろうか？」
「他の治療法はないのかしら？」など不安に思ったことは
ありませんか？

セカンドオピニオンとは、患者さんやご家族が納得して治療を選択することができるように、治療の進行状況、次の段階の治療選択などについて、現在診療を受けている主治医とは別の病院の医師に「第2の意見」を求めることです。

セカンドオピニオンは、担当医を替えたり、転院したり、他の病院で治療を受けたりすることだと思っている方もいらっしゃいますが、そうではありません。

したがって、セカンドオピニオンを受ける医療機関では、診察や検査といった医療行為は行いません。あくまでも、持参した医師の診療情報提供書(紹介状)等を参考に意見を述べるのみです。「第2の意見」を聞いて、患者さんやご家族が治療を選択する材料とするものです。

「主治医が気分を害したりしませんか？」



セカンドオピニオンを検討するということは、「主治医に失礼な気がして、言い出しにくい。」「書類を頼みにくい。」という方もいるかもしれません。

ですが、最近ではセカンドオピニオンは一般的なものとして認知されており、実際に当院へも多くの患者さんが、セカンドオピニオンを目的に来院されています。

主治医側にとっても、担当患者さんが十分に考えて、納得して治療を受けられるので双方共にメリットがあるのです。

ただし、病状や進行度によっては時間的な余裕がなく、なるべく早期に治療を開始した方がよい場合もあるので、現在の主治医と病状や治療の必要性についてよく話し合う事から始めましょう。